

扱う個人情報について、自主的なルール及び体制に基づき、個人情報保護に関する法令及びその他の規範に遵守し、個人情報保護方針を定め、これを実行し継続的に見直し、改善・向上に努めることを宣言した。また実施責任者および実施者と実施目的を明確にし、回答者に不利益をもたらすことがないことを周知徹底した。アンケート調査の実施にあたっては、本研究班ホームページにアクセスし、回答するように配備した。ホームページにアクセスするにあたり、部外者の侵入を防止するために、ログインID、パスワードを必要としたが、実際のアンケートに対する回答に関しては、個人が識別できないようにプライバシーの保護に関しては十分に配慮した。なお、回答にあたっては指導歯科医の自由意志で行い、強制力がないものとしたが、可及的に行っていただくように研究の目的を明記した依頼文を作成し、文書にて各施設の施設長宛に通知を行った。

「指導歯科医のメンタルヘルスに関する調査」は、5～10分程度で回答できるように、指導歯科医の実情を把握するための項目を加え、他業種と比較検討を行うことができるように、一般的に使用されている職業性ストレス簡易調査票³⁾57項目と抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾20項目を取り入れて実施することとした。

2. 調査対象期間について

平成20年度指導歯科医のメンタルヘルスに関する調査において、職業性ストレス簡易調査票³⁾は、最近1ヵ月間の状態について設問を設定し、抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾は、ここ1週間の状況について設問を設定している。

今回、メンタルヘルスに関する調査期間は、平成21年2月12日から平成21年3月10日までであり、研修終了時期に近い時点を調査対象時期とした。

3. 指導歯科医について

歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令(平成17年厚生労働省令第103号)が平成17年6月28日に公布・施行され、省令の中で「指導歯科医」は以下の内容で記載され

ている¹⁾。

ア 指導歯科医は常に勤務する歯科医師であって研修歯科医に対する指導を行うために必要な経験及び能力を有しているものでなければならないこと。

(ア)「研修歯科医に対する指導を行うために必要な経験及び能力を有しているもの」とは、一般歯科診療についての的確に指導し、適正に評価を行うことができ、以下の(1)、(2)のいずれかの条件に該当する者であること。なお、臨床経験には、臨床研修を行った期間を含めて差し支えないこと。

(1) 7年以上の臨床経験を有する者であって、指導歯科医講習会(財団法人歯科医療研修振興財団主催又は「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」(平成16年6月17日付け医政発第0617001号)にのっとり開催されたもの)を受講していること。なお、都道府県歯科医師会会長の推薦があることが望ましいこと。

(2) 5年以上の臨床経験を有する者であって、日本歯科医学会・専門分科会の認定医・専門医の資格を有し、指導歯科医講習会(財団法人歯科医療研修振興財団主催又は「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針について」(平成16年6月17日付け医政発第0617001号)にのっとり開催されたもの)を受講していること。

(イ) 指導歯科医は、臨床研修指導のための研さんを続けなければならないこと。

イ 指導歯科医は、担当する分野における研修期間中、研修歯科医ごとに臨床研修の目標の達成状況を把握し、研修歯科医に対する指導を行い、適宜、研修歯科医の評価をプログラム責任者に報告すること。

(ア) 指導歯科医は、研修歯科医の評価に当たっては、当該研修歯科医の指導を行い、又は研修歯科医と共に業務を行った歯科医師、歯科衛生士その他の職員と十分情報を共有し、各職員による評価を把握した上で、責任を持って評価を行わなければならないこと。

(イ) 指導歯科医は研修歯科医と十分意志疎通を図り、実際の状況と評価に乖離が生じないように努めなければならないこと。

(ウ) 研修歯科医による指導歯科医の評価につい

ても、指導歯科医の資質の向上に資すると考えられることから、実施することが望ましいこと。

ウ 研修協力施設等における研修実施責任者や指導者についても、指導歯科医と同様の役割を担うものであること。

これらのことから歯科臨床の現場で研修歯科医を指導する立場にある指導歯科医の役割は極めて重要である。しかしながら、指導歯科医の資格を有する歯科医師の実態に関しては明らかでない面も見受けられる。今回、指導歯科医の実情を把握するにあたり、性別、年齢、臨床経験年数、所属する臨床研修施設種別、所属する臨床研修施設、職階・役職、平成18年度以降直接的に指導を行った研修歯科医総数、平成20年度に実際に指導を行っている研修歯科医総数、仕事量からみた研修歯科医の指導に費やす時間の割合に関する調査と指導歯科医のメンタルヘルスに関するアンケート調査を施行した。なお、平成20年度における臨床研修施設数は、厚生労働省医政局歯科保健課のデータ⁶⁾から、大学病院（歯学を履修する課程を置く大学に附属する病院）が31、大学病院（歯科医業を行わないものを除いた医学を履修する課程を置く大学に附属する病院）が66、その他の病院として単独型臨床研修施設が97、管理型臨床研修施設が13、単独型・管理型臨床研修施設が2、協力型臨床研修施設が104、歯科診療所として単独型臨床研修施設が11、管理型臨床研修施設が4、単独型・管理型臨床研修施設が3、協力型臨床研修施設が1463であり、合計1794施設が歯科医師臨床研修施設として指定されている。

大学附属病院での指導歯科医は、5年以上の臨床経験、病院長が発行した臨床指導経歴を示す教育評価及び業績証明書を有する者が含まれており、実際に平成20年度において本制度に携わる指導歯科医の総数は把握できていないのが現状である。

今回、指導歯科医のメンタルヘルスに関する調査により、歯科大学・歯学部附属病院の指導歯科医454名、大学病院口腔外科の指導歯科医100名、一般病院口腔外科の指導歯科医68名、一般病院歯科の指導歯科医20名、診療所・歯科医院の指導歯科医168名、総計810名の指導歯科医からアンケート回答を得ることができた。

3. 職業性ストレス簡易調査票³⁾について

職業性ストレス簡易調査票³⁾は、職場で比較的簡便に使用できる自己記入式のストレス調査票であり、平成7年から平成11年度労働省委託研究「作業関連疾患の予防に関する研究」のストレス測定グループの研究の成果である。特徴として、ストレスの反応だけでなく、仕事上のストレス要因、ストレス反応、および修飾要因が同時に測定できる多軸的な調査票であり、ストレス反応では、心理的反応ばかりでなく、身体的反応も測定することができる。心理的ストレス反応では、ネガティブな反応だけではなく、ポジティブな反応も評価できる。あらゆる業種の職場で現在使用されている。また、質問項目数は、仕事のストレス要因、ストレス反応、修飾要因の3つから構成され、全57項目と少なく、回答は4件法（1＝そうだ、2＝まあそうだ、3＝ややちがう、4＝ちがう）で5～10分程度の時間で行うことができるものである。

仕事のストレス要因に関する尺度は9つであり、心理的な仕事の量的負担と心理的な仕事の質的負担、身体的負担、コントロール、技術の活用、対人関係、職場環境、仕事の適性度、働きがいの17項目から構成される。

ストレス反応については、心理的ストレス反応と身体的ストレス反応について測定でき、心理的ストレス反応の尺度は5つで、ポジティブな心理的反応の尺度として、活気、ネガティブな心理的反応の尺度としてイライラ感、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴の29項目から構成される。修飾要因としては、上司、同僚、および配偶者・家族・友人からのサポート9項目、仕事あるいは家庭生活に対する満足度の2項目から構成される。

仕事のストレス判定図は、事業場全体、部や課、作業グループなどの集団を対象として仕事の心理的ストレス要因を評価し、それが従業員のストレスや健康リスクにどの程度影響を与えているかが判定できる。今回、仕事の量的負担と仕事のコントロールをストレス要因として、それらから算出されたストレス度を健康リスクとしてプロットして表現した「量-コントロール判定図」、同僚の支援と上司の支援から作成する「職場の支援判定

図」の2つを用いて、臨床研修施設の種別に比較検討した。判定図の斜めの線は、仕事のストレス要因から予想される疾病休業などの健康問題のリスクの標準集団（種々の業種、職種の労働者のデータベース（約25,000名））の平均を100としており、部署ごとに仕事の量的負担、コントロール、上司からの支援、同僚からの支援の平均点を算出すればそれぞれの部署の健康リスクを求めることが可能である。

職業性ストレス簡易調査票³⁾の分析結果から、指導歯科医810名の総合した健康リスクは101であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団の100と比較して変わらないことが認められた。

臨床研修施設別でみた指導歯科医の総合した健康リスクは、診療所・歯科医院、一般病院歯科、一般病院口腔外科、歯科大学病院・歯学部附属病院、大学病院口腔外科の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。また、臨床研修施設の種別でみた場合、単独型臨床研修施設では、診療所・歯科医院、一般病院口腔外科、一般病院歯科、大学病院口腔外科、歯科大学病院・歯学部附属病院の順、管理型臨床研修施設では診療所・歯科医院、一般病院口腔外科、一般病院歯科、歯科大学病院・歯学部附属病院、大学病院口腔外科の順、協力型臨床研修施設では診療所・歯科医院、一般病院歯科、大学病院口腔外科、歯科大学病院・歯学部附属病院、一般病院口腔外科の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。

年代別でみた場合、60歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、70歳代の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。

臨床経験年数別でみた場合、5年、31年以上、16～20年、6～10年、11～15年、26～30年、21～25年の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。

歯科大学病院・歯学部附属病院における職階別でみた場合、助教、その他、講師、准教授、教授の順で総合した健康リスクの値は大きくなった。また、副研修プログラム責任者、その他、プログラム責任者、研修実地責任者、研修担当者の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。

一般病院口腔外科における役職別でみた結果、研修実地担当者、歯科部長、歯科医長、その他の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。

一般病院歯科における役職別でみた場合、研修実地担当者、歯科医長、歯科部長の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。

診療所・歯科医院における役職別でみた場合、研修責任者、研修担当者、その他、副院長、理事長・院長の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があったがいずれも総合した健康リスクは85以下であった。

平成18年度以降指導歯科医として直接的に指導を行った研修歯科医総数でみた結果、8名、26～30名、10名、6名、7名、4名、5名、3名、9名、0名、2名、11～15名、1名、31名以上、16～20名、21～25名の順で健康問題が起きるリスクが高くなった。直接的に指導を行っている人数で総合した健康リスクにばらつきが認められ、研修歯科医総数による傾向は認められなかった。

平成20年度に実際に研修歯科医の指導を行っている研修歯科医総数でみた結果、8名、26～30名、2名、0名、3名、4名、21～25名、10名、7名、11～15名、1名、31名以上、5名、16～20名、6名、9名の順で健康問題が起きるリスクが高くなったが、直接的に指導を行った人数で総合した健康リスクにばらつきが認められ、指導を行っている研修歯科医総数で傾向は認められなかった。なお、平成18年度以降11名以上直接的に研修歯科医の指導を行った者は414名、平成20年度に実際に11名以上研修歯科医の実際に指導を行っている者は517名であり、指導歯科医1名に対して研修歯科医の同時受入れ可能定員は2名であることから、多くの研修歯科医を直接的に指導しているこれらの指導歯科医のほとんどが管理型・単独型臨床研修施設の指導歯科医からの回答であると考えるとよいであろう。

仕事量からみた平成20年度における研修歯科医の指導に費やす時間でみた場合、41～50%、51～60%、21～30%、31～40%、61～70%、11～20%、71～80%、1～10%、81～90%、91～100%の順で総合した健康リスクは大きくなり、研修歯科医の

指導に費やす時間で傾向は認められなかった。

なお、判定図の作成にあたっては判定図の作成する部署の人数は少なくとも10名以上、できれば20名以上が望ましいことがマニュアルに記述されており、人数が少ない場合は、個人差の影響が大きくなり、職場のストレスを正しく評価することが困難であることが示されていることから、人数が10~20名のデータに関しては参考程度として考える必要があるだろう。

4. 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾について

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾は、スクリーニングテストの1つであり、1977年にRadloff, L. S.⁴⁾により開発された。これは、短い自己記入式の評価尺度で行うテストであり、抑うつ気分、不眠、食欲低下などのうつ病の主要症状が含まれた20項目の設問から構成され、設問の4, 8, 12, 16項目は逆転項目として組み込まれており、4段階評価で0~3点に換算して集計する。Cut-off point(区分点)は、16点であり、16点以上を「抑うつ状態」と判定し、「気分障害」の可能性が高いこと⁵⁾が示唆されている。

今回の結果から、抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた結果、指導歯科医810名の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が13.7点(標準偏差8.4点)であり、平均点でみた場合、Cut-off point(区分点)の16点以下を示したが、Cut-off point(区分点)の16点以上の指導歯科医は、810名中279名が該当し、指導歯科医の34.4%は「抑うつ状態」である可能性があることが示唆された。

臨床研修施設の種別でみた場合、Cut-off point(区分点)の16点以上を示した項目は、管理型臨床研修施設の一般病院歯科(18.7点)、協力型臨床研修施設の大学病院口腔外科(17.4点)、所属する臨床研修施設別でみた場合の一般病院歯科(16.3点)であった。

職階別でみた場合、Cut-off point(区分点)の16点以上を示した項目は、歯科大学・歯学部附属病院のその他(17.2点)、一般病医院口腔外科のその他(20.5点)、一般病院歯科の歯科部長(18.4点)、研修実地担当者(18.5点)であった。年代

別、臨床経験年数別でみた場合、Cut-off point(区分点)の16点以上を示した項目は認められなかった。平成20年度に実際に指導を行っている研修歯科医総数でみた場合、Cut-off point(区分点)の16点以上を示した項目は、6名(16.4点)、9名(24.3点)、26~30名(18.2点)であった。

仕事量からみた平成20年度における研修歯科医の指導に費やす時間でみた場合Cut-off point(区分点)の16点以上を示した項目は、91~100%(19.3点)であった。

平成19年度厚生労働科学研究費補助金・地域医療基盤開発推進研究事業において、プログラム責任者のメンタルヘルスに関する調査⁷⁾を行った。その結果、プログラム責任者が抱えるストレス状況には個人差があることが認められ、抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)の平均点は14.2点であり、Cut-off point(区分点)の16点以下を示したが、16点以上であったプログラム責任者の約3割が「抑うつ状態」である可能性があることが示唆されている⁷⁾。今回の調査によるプログラム責任者の抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)の平均点は14.9点、副プログラム責任者の抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)の平均点は14.3点であり、平成19年度の調査結果と近似した値を示した。

また、本アンケート調査において、指導歯科医として「ストレスを感じること」について自由記載で回答を求めた結果、指導歯科医が臨床の現場で「ストレスを感じること」については多種多様な内容があることが判明し、メンタルヘルスに関する調査を行うにあたり、指導歯科医から貴重な意見を得ることができた。

「歯科医師歯科医師臨床研修推進検討会」(座長：石井拓男東京歯科大学千葉病院長)より、平成20年12月22日付けで歯科医師臨床研修制度に関する改善・充実について「歯科医師臨床研修推進検討会」報告書⁸⁾がとりまとめられた。報告書の中でプログラム責任者・指導歯科医への対応に関する項目があり、「現在、臨床研修施設においては、常勤の指導歯科医が少なくとも1名在籍すれば指定基準を満たすことになる。また、研修歯科医への指導歯科医の直接的な研修指導のみではなく、上級歯科医によるいわゆる屋根瓦方式による

研修指導も行われている。このような状況に鑑み、研修管理委員会が研修プログラムを管理していく上では、カリキュラム立案能力並びに臨床研修指導技法を習得した多くの指導歯科医と上級歯科医が関与するように考慮することが望まれる。」と記載されている。したがって、臨床研修の現場において、今後とも指導歯科医、上級歯科医の役割は極めて重要であり、研修指導者側として、メンタルヘルスに関する知識、対処法に関する資質向上を図る必要がある。

今回の調査結果から、指導歯科医 810 名の総合した健康リスクは 101 であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団の 100 と比較して変わらないことが認められた。また、指導歯科医が抱えるストレス状況は個人差があることが認められ、抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D) の平均点は 13.7 点であり、Cut-off point (区分点) の 16 点以下を示したが、16 点以上であった指導歯科医は 810 名中 279 名存在し、指導歯科医の約 3 割強が「抑うつ状態」である可能性があることが示唆された。

E. 結論

歯科医師臨床研修制度で一般歯科診療についての研修指導を指導し、適正に評価を行うことができる指導歯科医の役割は極めて重要である。新歯科医師臨床研修制度の有効性、効率性を評価するとともに、制度の見直しのための基礎的資料を得ることを目的として、必修化 3 年目における指導歯科医のメンタルヘルスに関する調査を行い、包括的、多角的に検討した。アンケートの回答者数は 810 名 (男性 679 名、女性 131 名) であった。指導歯科医全体でみた結果、健康リスクは 101 であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団と比較して変わらない傾向があることが認められた。抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、指導歯科医 810 名の最低点が 0 点、最高点が 60 点であり、平均点が 13.7 点 (標準偏差 8.4 点) で、Cut-off point (区分点) の 16 点以下を示した。ただし、16 点以上であった指導歯科医は 279 名存在し、指導歯科医の 3 割強が「抑うつ状態」である可能性があることが示唆された。

F. 研究発表

- 1) 第 28 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会にてポスター発表予定 (2009 年 11 月 6 日、7 日)
- 2) 日本歯科医学教育学会雑誌に投稿予定

G. 文献

- 1) 歯科医師法第 16 条の 2 第 1 項に規程する臨床研修に関する省令の施行について (「施行通知」), 2005.
- 2) 歯科医師臨床研修プログラム検索サイト (D-REIS), <http://www.d-reis.jp.org/> (Accessed 2009. 3. 20.)
- 3) 平成 14~16 年度厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究「職場環境等の改善によるメンタルヘルス対策に関する研究」(主任研究者: 下光輝一): 職業性ストレス簡易調査票を用いたストレスの現状把握のためのマニュアルより効果的な職場環境等の改善対策のために一, 1-28, 2005.
- 4) Radloff, L. S.: The CES-D: A self-report depression for research in the general population, Applied Psychological Measurement, 1:385-401, 1977.
- 5) 糠野亜紀: 短期大学生の精神的健康状態に関する研究, 和歌山信愛女子短期大学・信愛紀要, 44: 49-51, 2004.
- 6) 歯科医師臨床研修の現状: 厚生労働省歯科医師臨床研修ホームページ, <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/sankou/genjo/hissyuka.html> (Accessed 2009. 3. 20.)
- 7) 秋山仁志: プログラム責任者のメンタルヘルス調査に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業, 新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究平成 19 年度総括・分担研究報告書, 72-102, 2008.
- 8) 歯科医師臨床研修推進検討会: 「歯科医師臨床研修推進検討会」報告書, 平成 20 年 12 月 22 日 <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/12/d1/h122-1a.pdf> (Accessed 2009. 3. 20.)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1. 指導歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートで使った調査票

指導歯科医のメンタルヘルスに関するアンケート

設問は20問あります。全ての設問に回答する必要があります。一部設問に重畳があります。正確な統計を取るためのものですので、ご協力をお願いします。なお、このアンケートは、個人が特定できない形で集計を行いますので、個人の情報が流出することはありません。

- Q1 性別についてお伺いします。(必須)
 男性 女性
- Q2 年齢についてお伺いします。(必須)
 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代 80歳代
- Q3 臨床経験年数についてお伺いします。(必須)
 5年 6年～10年 11年～15年 16年～20年 21年～25年 25年～30年 30年以上
- Q4 所属する臨床研修施設についてお伺いします。(必須)
 Q4-1 臨床研修施設の種別を選んでください。(複数回答可)
 単独型臨床研修施設
 管理型臨床研修施設
 協力的臨床研修施設
 Q4-2 該当する臨床研修施設を選んでください。
 歯科大学病院・歯学部附属病院
 大学病院口腔外科
 一般病院口腔外科
 一般病院歯科
 診療所・歯科医院
 Q4-1にて「管理型臨床研修施設」と答えた方に質問です。
 Q4-3 平成20年度の研修歯科医の研修期間について回答してください。(必須)
 複数のプログラムで受入れを行っている場合、各プログラムの研修歯科医の研修期間をそれぞれ回答してください。
 月間 月間 月間 月間 月間 月間 月間 月間
 Q4-1にて「協力的臨床研修施設」と答えた方に質問です。
 Q4-4 貴施設での研修歯科医の研修期間について回答してください。(必須)
 複数のプログラムで受入れを行っている場合、受入れを行っている研修歯科医の研修期間をそれぞれ回答してください。
 月間 月間 月間 月間 月間 月間 月間 月間
 Q4-1にて「協力的臨床研修施設」と答えた方に質問です。
 Q4-5 並行申請を行っているかどうか回答してください。(必須)
 並行申請していない
 並行申請している
 Q4-5にて「並行申請している」と答えた方に質問です。
 Q4-6 平成20年度に実際に研修歯科医の受入れを行っている管理型臨床研修施設数について回答してください。(必須)
 1施設 2施設 3施設 4施設 5施設以上

Q5 職階についてお伺いします。(必須)

- Q5-1 Q4-2にて「歯科大学病院・歯学部附属病院」または「大学病院口腔外科」と答えた方は回答してください。
 教授 准教授 講師 助教 その他
- Q5-2 Q4-2にて「歯科大学病院・歯学部附属病院」または「大学病院口腔外科」と答えた方は回答してください。
 プログラム責任者 副プログラム責任者 研修実施責任者 研修担当者 その他
- Q5-3 Q4-2にて「一般病院口腔外科」と答えた方は回答してください。
 歯科部長 歯科医長 研修実施担当者(歯科部長・医長を除く) その他
- Q5-4 Q4-2にて「一般病院歯科」と答えた方は回答してください。
 病院長 副院長 歯科部長 歯科医長 研修実施担当者(病院長・副院長・歯科部長・医長を除く) その他
- Q5-5 Q4-2にて「診療所・歯科医院」と答えた方は回答してください。
 理事長・院長 副院長 研修責任者(院長・副院長を除く) 研修担当者 その他

Q6 平成18年度以降、指導歯科医として直接的に指導を行った研修歯科医数の総数を教えてください。(必須)

- 0名 1名 2名 3名 4名
 5名 6名 7名 8名 9名
 10名 11～15名 16～20名 21～25名 26～30名
 30名以上

Q7 平成20年度に実際に指導を行っている研修歯科医数の総数を教えてください。(必須)

- 0名 1名 2名 3名 4名
 5名 6名 7名 8名 9名
 10名 11～15名 16～20名 21～25名 26～30名
 30名以上

Q8 あなたの仕事量からみた平成20年度における研修歯科医の指導に費やす時間の割合を選んでください。(必須)

- 1-10% 11-20% 21-30% 31-40% 41-50%
 51-60% 61-70% 71-80% 81-90% 91-100%
- Q9 仕事についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その1)(必須)
- | | | | | |
|---------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 非常にたくさんのごとをしなければならぬ | そうだ | まあそうだ | ややそう | ちがう |
| 時間内に仕事が処理 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

されない
 一生懸命働かなければ
 ならない
 かなり注意を集中する
 必要がある
 高度の知識や技能が必
 要なむずかしい仕事だ
 勤務時間内はいつも仕
 事のことを考えない
 なければならない
 からだを大変よく使う仕
 事だ
 自分のペースで仕事が
 できる
 自分で仕事の順番・や
 りかたを決める事ができ
 る
 職場の仕事の方針に自
 分の意見を反映できる

Q10 仕事についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その2) (必須)

そうだ
 まあそうだ
 ややそうだ
 ちがう

自分の技能や知識を仕
 事ですること少ない
 私の部署内で重宝のく
 い違いがある
 私の部署と他の部署と
 はうまが合わない
 私の部署の雰囲気は友
 好的である
 私の職場の作業環境
 (騒音、照明、温度、換
 気など)はよくない
 仕事の内容は自分にあ
 っている
 働きたいのある仕事だ

Q11 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その1) (必須)

ほとんどなかった
 ときどきあった
 しばしばあった
 ほとんどいつもあった

活気がわいてくる
 元気がいっぱいだ
 生き生きする
 怒りを感じる
 内心腹立たしい
 イライラしている
 ひどく疲れた

へとへだ
 だるい
 気がはりつめている

Q12 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その2) (必須)

ほとんどなかった
 ときどきあった
 しばしばあった
 ほとんどいつもあった

不安だ
 寝着かない
 仲うつだ
 何をしても面倒だ
 物事に集中できない
 気分が晴れない
 仕事が手につかない
 悲しいと感じる
 めまいがする
 体のふしぎが嫌む

Q13 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その3) (必須)

ほとんどなかった
 ときどきあった
 しばしばあった
 ほとんどいつもあった

頭が重かったり頭痛が
 する
 首筋や肩がこる
 腰が痛い
 目が覚める
 動悸や息切れがする
 胃腸の真合が悪い
 食欲がない
 便秘や下痢をする
 よく眠れない

Q14, Q15, Q16ではあなたの周りの方々についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。Q14 次の人たちとはどのくらい気軽に話ができますか? (必須)

上司
 職場の同僚
 配偶者・家族・友人等
 非常に
 かなり
 多少
 全くない

非常に
 かなり
 多少
 全くない

Q15 あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか? (必須)

非常に
 かなり
 多少
 全くない

なかった
 ひとりぼっちだと感じた
 人々がよそよそしいと感じた
 人生を楽しんだ
 憂ぐことがあった
 悲しい気分だった
 まわりの人が自分を嫌っていると感じた
 ものことに手がかかなくて感じた

Q20 指導医として、「ストレスを感じることに」について記載してください(自由記載)。

ご協力ありがとうございます。遠慮ボタンをクリックしてください。
 回答内容を取り消したい場合には本研究班のトップページから再度ログインしてください。

閉じる

職場の同僚
 配偶者・家族・友人等
 Q18 あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらいいきいきしてくれますか？(6点)
 非常に
 かなり
 多少
 全くない
 上司
 職場の同僚
 配偶者・家族・友人等
 Q17 満足度について(6点)
 満足
 まあ満足
 やや不満足
 不満足
 仕事に満足だ
 家庭生活に満足だ

Q18 それぞれの文章を読んで、この一週間どのくらいいしばああなたがそのようにふるまったり、感じたりしたか、選択してください。(その1)(6点)

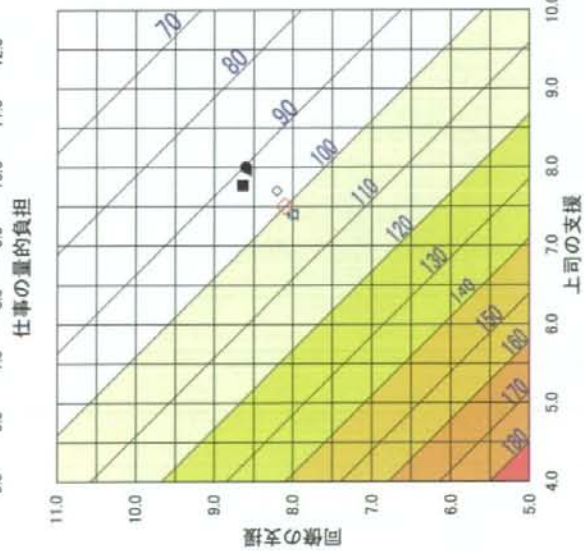
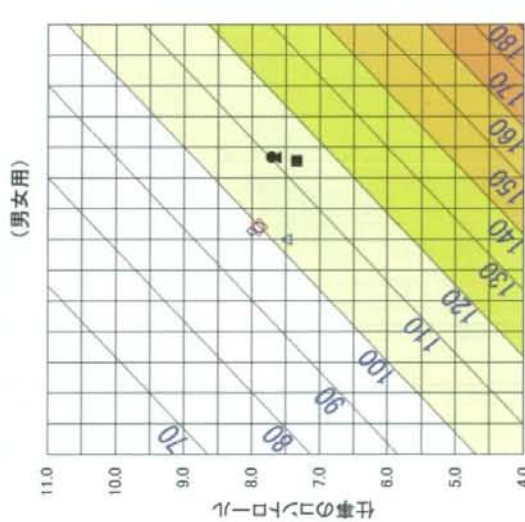
	ない	週に1~2日	週に3~4日	週に5日以上
普段ではなんでもないことがやむを得ずわしかなかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
食べたくなかった・食欲がなかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
たとえ家族や友人が助けてくれたとしても、ゆううつな気分は晴れないとかんじた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分は、他の人と同じくらいに価値があると感じた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ものごとにも集中できなかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
気分が落ち込んでいると感じた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
やることすべてに骨が折れると感じた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
将来に希望があると感じた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
これまでの人生は失敗だったと感じた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
何かにびくびくすることがあった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q19 それぞれの文章を読んで、この一週間どのくらいいしばああなたがそのようにふるまったり、感じたりしたか、選択してください。(その2)(6点)

	ない	週に1~2日	週に3~4日	週に5日以上
落ちつかず、眠れなかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
幸せな気分だった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
普段より口数が少なかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

性別でみた結果

簡易調査票用仕事のストレス判定図



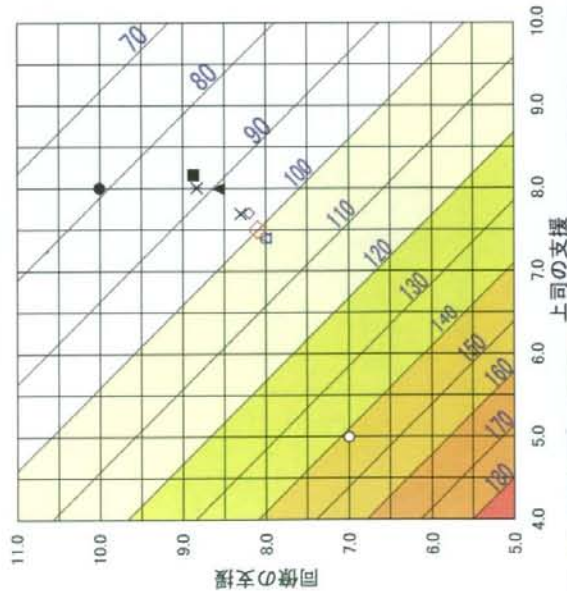
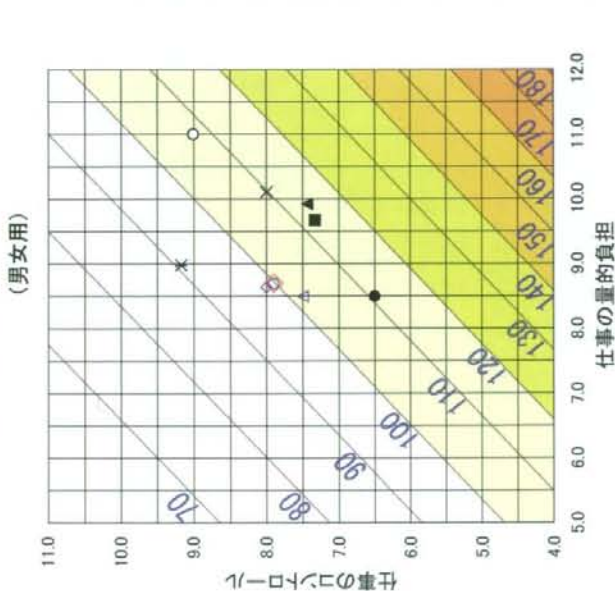
○職場別の比較

性別	健康リスク				
	腰的負担 (点)	コントロール (点)	上司の目上 (点)	同僚の対価 (点)	同僚の支援 (点)
男性	9.8	7.7	8.0	8.6	9.0
女性	9.8	7.3	7.8	8.6	9.2
全体	9.8	7.7	8.0	8.6	9.1

作成日:2009/3/21



簡易調査票用仕事のストレス判定図



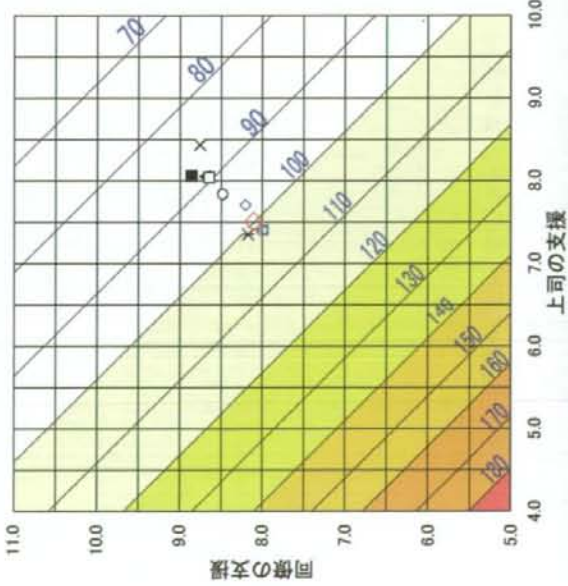
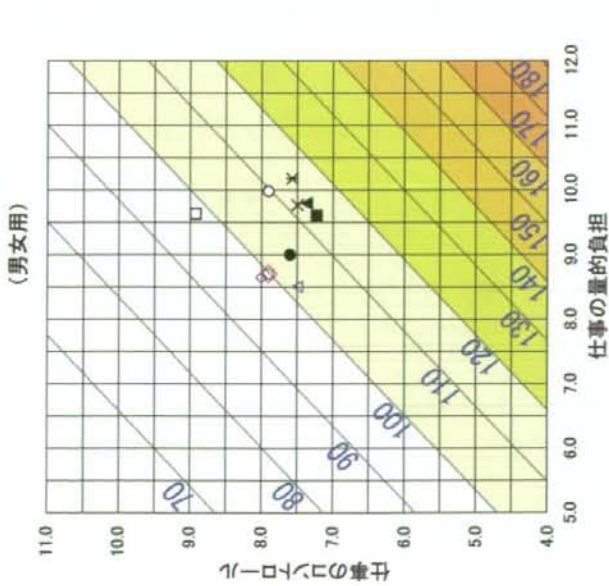
○職場別の比較

年齢	健康リスク				
	研究結果	コイロール	上司の同僚	(学) 同僚の同僚	(学) 同僚の同僚
20歳代	2	8.5	6.5	8.0	10.0
30歳代	245	9.7	7.3	8.2	8.9
40歳代	303	9.9	7.4	8.0	8.6
50歳代	211	10.1	8.0	7.7	8.3
60歳代	48	9.0	9.2	8.0	8.8
70歳代	1	11.0	9.0	5.0	7.0



◇ 全国平均 ○ 専門職 ◇ 事務職 △ 現業職

簡易調査票用仕事のストレス判定図



○職場別の比較

職場別の比較	人			量的負担		コパノール		上司の支援		同僚の支援		職場の支援		健康リスク
	数	量	率	(点)	(点)	(点)	(点)	(点)	(点)	(点)	(点)	(点)	率	
5年	5	9.0	7.6	10.4	10.4	105	60	63						
6年~10年	144	9.6	7.2	8.1	8.9	113	87	98						
11年~15年	149	9.8	7.4	8.1	8.7	113	89	100						
16年~20年	145	9.8	7.5	8.4	8.8	112	85	95						
21年~25年	168	10.2	7.6	7.4	8.2	115	100	115						
26年~30年	110	10.0	7.9	7.8	8.5	110	93	102						
30年以上	89	9.6	8.9	8.0	8.7	98	89	87						

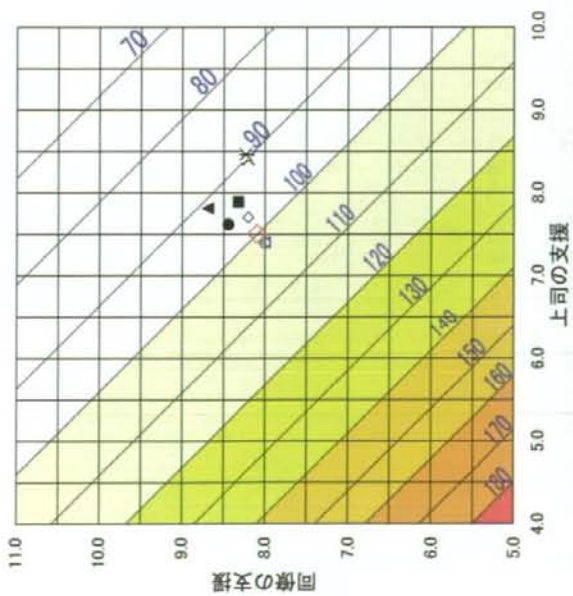
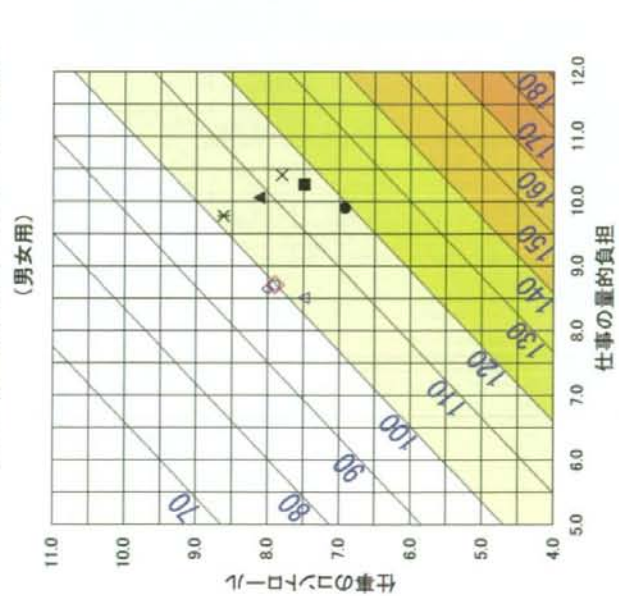
作成日: 2009/3/19

●5年 ■6年~10年 ▲11年~15年 ×16年~20年 ×21年~25年 ○26年~30年 □30年以上

◆◇△

参考値
◇全国平均 ○専門職 △現業職

簡易調査票用仕事のストレス判定図



○職場別の比較

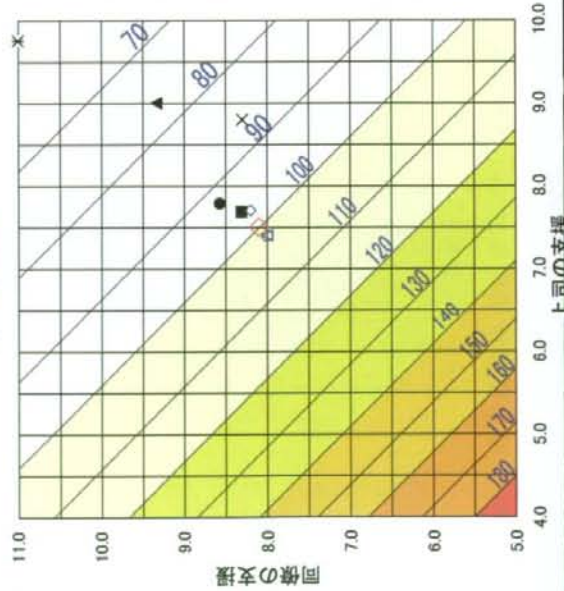
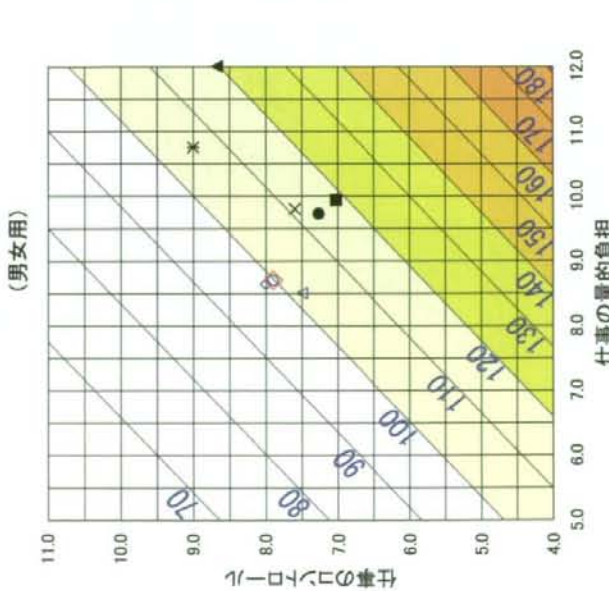
施設	職場別の比較					健康リスク	
	単独型(歯科大学病院・歯学部附属病院)	単独型(歯科大学病院)	単独型(歯科大学病院)	単独型(歯科大学病院)	単独型(歯科大学病院)	職場の支援	健康リスク
●	210	9.9	6.9	8.4	119	95	113
■	74	10.3	7.5	8.3	116	94	109
▲	59	10.1	8.1	8.7	108	91	98
×	5	10.4	7.8	8.4	114	90	102
×	13	9.8	8.6	8.5	101	89	89

● 単独型(歯科大学病院・歯学部附属病院)
 ■ 単独型(歯科大学病院)
 ▲ 単独型(歯科大学病院)
 × 単独型(歯科大学病院)
 × 単独型(歯科大学病院)

作成日: 2009/3/19

参考値
 ◇ 全国平均 ○ 専門職 ◇ 単独型 △ 現業職

簡易調査票用仕事のストレス判定図



○職場別の比較

職場	健康リスク				
	重労働時間 (時)	コントロール (時)	上司の支援 (時)	同僚の協働 (時)	患者の協働 (時)
管理型(歯科大学病院・歯学部附属病院)	353	9.7	7.3	8.6	92
管理型(歯科大学病院・歯学部附属病院)	36	9.9	7.0	8.3	96
管理型(一般病院口腔外科)	3	12.0	8.7	9.3	76
管理型(一般病院口腔外科)	10	9.8	7.6	8.3	86
管理型(診療所・歯科医院)	8	10.8	9.0	11.0	60

● 管理型(歯科大学病院・歯学部附属病院)
 ■ 管理型(歯科大学病院・歯学部附属病院)
 ▲ 管理型(一般病院口腔外科)
 × 管理型(一般病院口腔外科)
 ✕ 管理型(診療所・歯科医院)

参考値
 ◇ 全国平均 ○ 専門職 ◇ 事務職 △ 現業職